

フラメンコの樹

第5回

鈴木 真澄 (バイラオーラ)

Masumi Suzuki / 1958年中野生まれ。6歳でバレエ。12歳で新体操。15歳フラメンコ。18歳渡西。21歳結婚。22歳雄輔出産。23歳麻衣出産。25歳教室開設。26歳離婚。34歳雄輔渡西。36歳麻衣渡西。42歳会社設立。50歳初孫。60歳フラメンコ。俳句入門。



©GRASPANY

「身体を動かす基本」

フラメンコ舞踊の基本的な身体の使い方
を教えてください。先生が亡くなりました。
ご遺族の意向を尊重してお名前は伏せさ
せていただきます。でも、そのご功績はぜ
ひご報告したいのでここに記させていた
きます。

この先生をご紹介くださったのはギター
ストの田代耕一さんです。子育て中に少
ずつライブにも出演するようになった頃、
はじめてのエスペランサ出演。早めにお店
に行くついでに薄暗い中ギターを弾いて
いらしたのが耕一さんと初対面でした。フ
ラメンコライブの灯を絶やさないように、
と現在のコロナ渦中でもライブを続けてい

らっしゃるエスペランサのオーナーが耕一
さんの弟である田代淳さんです。

それから何度か本番でお世話になってい
たある日「フラメンコの身体の使い方を教
えてくれる人がいますよ」と先生を紹介
いただきました。小田急線の鶴巻温泉駅か
らほど近いご自宅の一階をスタジオにし
ていらつしました。

大阪からわざわざお稽古を受けにいらし
ていたペバさんこと石川敬子さんとそのス
タジオでお会いしたことも……。

母子家庭で経済的にも余裕がなかった私
に「交通費もかかるんだから、お稽古代は
いらないよ。がんばっていらつしやいね」
と言ってくくださったご好意は一生忘れられ
ません。

15歳から小松原庸子先生のスタジオで学
んでいましたが、早くからたくさんの舞台
で踊らせていただいたので基本的な踊りの
見直しなどは吹っ飛ばしてきた感がありま
した。一度育児休暇した後、自分の教室で
教えていくために言葉で説明することの難
しさを実感したのです。若い頃はなんの抵
抗もなく、スポンジのように見たもの聞い
たものを吸収しましたから頭できちんと理
解してなかったんだなあとびっくり、がっ
くり……

そして、時間を割いて鶴巻温泉までうか
がいました。はじめてのレッスンは、「ま
っすぐ立つてみて。」と一言だけ言われて、
きおつけのように立った私に「足の向き、
腿、腰回り、お尻、お腹、胸、背中、首、頭、
肩、ひじ、手首、指先まですべての部位が

どちらの方向に引つ張ってどんな空間を作
るかを教えてくださり、

「まったく背の高い子は大変だよ」
と、ずるずると引つ張ってきた椅子に登
って頭の上に伸ばした私の指先まで直して
くださいました。全体に力を入れたら、今
度は一歩も踏み出せない状態が続きました。
翌朝はいつも身体中が痛くて起き上がれな
かったです。

大地をしっかりと踏みしめて歩く。下半
身は地へ、上半身は天に向かいウエストで
上下引つ張り合う。さまざまなことを習い
ましたが、当然すぐには身につかず3年く
らいは思うように踊れませんでした。そん
な私に、長く応援してくださいっていたお客
様のお一人から

「どうしたの？ 前のように全然のびのび
踊ってないね〜！」とご意見をいただき、
基本的なことを見直している旨をお伝えす
ると納得して、「楽しみにしているよ」と
変わらず見守ってください、改めて感謝の
気持ちでいっぱいになったものです。

今の私の身体の使い方は先生に教えてい
ただいたものを基に、自分が生徒さんに教
えながら研究してきたやり方です。もとも
と骨格も何もかも違う人種の日本人がフラ
メンコを踊るために気をつけたいこと、真
似事に終わらず、日本人の良さも生かして、
でもフラメンコの正道は外さずに……亡く
なった先生の教えを大切に伝承していき
たいと思います。

心よりご冥福をお祈りします。
合掌